平成19年度　第２回　芦屋市生涯学習基本構想素案策定委員会　会議録

日　　時	平成２０年２月４日（月）　１３：００～１５：００
場　　所	教育委員会室
出　席　者	委 員 長　　中谷　彪 副委員長　　小石　寛文 委　　員　　江守　易世 ・　　柴沼　元 ・　　岡本　伸子 ・　　山下　正夫 ・　　立花　暁夫 ・　　若林　敬子 ・　　寺田　緑 ・　　山田　崇雄 ・　　林　哲也 欠席委員 事 務 局
事　務　局	生涯学習課
会議の公開	■　公　開
傍 聴 者 数	１　人

1　会議次第
(1) 開会
(2)　議題
①市民アンケートについて
②その他
(3) その他

2　提出資料
資料１　生涯学習と社会教育・学校教育の関係イメージ図
資料２　芦屋市生涯学習推進基本構想市民意識調査キャッチフレーズ案
資料３　「生涯学習」に関する市民意識調査（案）

3　審議経過
開会
（中谷委員長）事務局、前回の質問事項について説明してください。

（事務局　川崎次長）前回、生涯学習の全体的な考え方については事務局で整理しました。生涯学習という言葉は、委員長のお話しありましたように、ユネスコのラングランから提唱されてから、国からも何回も答申や考え方を出しております。1971年、社会教育審議会の答申の中で、生涯を乳幼児、少年、青年、成人の４つの期に分け、それぞれの段階における社会教育の課題を説明しています。また、

その後1992年、生涯学習審議会で生涯学習社会を「人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会で適切に評価される社会」と定義し、「人々が毎日繰り返し学習する場は、一番身近な家庭である。生涯学習の大部分は在宅学習であるといっても過言ではない」といったことも書かれています。よって、在宅学習がしっかりできれば、生涯学習の実現は半ば達成されたといってもよいといったことも書かれています。それから、学校につきましても学校は成人に対する生涯学習機関ということで、学校が地域に開かれた教育機関になることが大事だということ、学校開放と学社連携もいわれてきています。学校教育、社会教育、家庭教育の連携が強く求められていると考えております。そういった中で、学校教育、社会教育、家庭教育の連携を図るためには、生涯学習の基盤が必要となってくると考えております。この１月に文部科学省の中央教育審議会の生涯学習部会が答申の素案を出しています。それも参考にご説明したいと思います。平成５年に策定しました生涯学習推進基本構想ですが、ここでは、乳幼児期の学習、少年期の学習、青年期の学習、成人期の学習、高齢期の学習ということで、幅広い年代をターゲットにして必要な学習課題あるいは行政課題の設定をしております。そういった中で今回、生涯学習の言葉の範囲が広いということで、分かりにくいのですが、１月の中央教育審議会の生涯学習部会の答申素案でも、生涯学習の具体的な内容をきちっと定義するよりは、どの分野を対象とするかを今後検討していくことが大切であり、それぞれで考えていってはどうですかと答申の素案でも書かれております。概念的には社会教育や学校教育そのものではなく、多様な学習活動が生涯学習に包含される対象であると考えております。事務局として、生涯学習というものは学校教育、社会教育を包含したイメージで考えております。「これを外す」「これを入れる」ときっちり決めるのではなく、幅広く議論をしていただきたいと思います。その中で、文章にする際には強弱をつけていくということで、今後の議論の中で決めていきたいと思います。

（中谷委員長）生涯学習は学校教育も社会教育も含めた形で、幼児教育については視野に入りますが、この計画の中での生涯学習の定義には強弱をつけていくということとして、ご審議いただきたいけれども、社会教育に重点を置いてしまうと思います。また、芦屋市において総合計画が立てられていますが、その中の生涯学習推進計画をもっと具体的に立てることが与えられた指名だと考えています。

（中谷委員長）では、事務局からの説明に対して質疑はありませんか。

（寺田委員）説明していただいたので理解できました。

（中谷委員長）前回議論して、事務局がその意見を受け、整理し、共通理解ができ、非常によかったと思います。全体を視野に入れ、焦点も絞られ、具体的な検討課題が出てくるのではないかと思います。資料２、３について、説明お願いします。

（事務局　田嶋主査）（資料２、３説明）

（中谷委員長）前回の意見を受けて、工夫・改善していただいたわけですが、ご意見は

ありますか。

（柴沼委員）この中に含まれているかもしれませんが、世代間交流がないので、世代間交流という項目を追加してはいかがでしょうか。

（事務局　川崎次長）追加いたします。

（江守委員）問２－４の「７　ＰＴＡ、保護者会、子ども会などの活動」ですが、子どもを対象と考えて「７　ＰＴＡ、保護者会、子ども会などの活動」となっているので、地域の活動と考えて“子ども会”は「６　町内会、自治会、防犯などの活動」の方が地域の活動とわかってよいのではないでしょうか。今、子ども会活動をしていることは、ＰＴＡの活動をしていたってことが現在の子ども会活動につながっています。対象の子どもが自分にはいないけれども、一般の子どもたちに対しての子ども会活動が育成できているのです。その指導を補っていく立場の人間としては種類が異なってくるように感じます。

（立花委員）どちらから考えるかによって、答えは二つあっていいのですけれど、私も実際の活動をみたら、“子ども会”は、町内会の活動、地域活動に入ると思います。活動ということでいくと、ＰＴＡ活動は学校の活動、子ども会は、地域の活動というように、活動母体でみると、地域活動に入ります。子どもということでみれば、ＰＴＡ活動と同じになるかもしれません。

（事務局　川崎次長）“子ども会”を地域の活動と考えたいと思います。

（小石副委員長）このアンケートを最初に受け取って回答してみると、自分のしている活動が「生涯学習」に入るのかと迷うのではないでしょうか。パソコンを使って、マニュアルを読んで一生懸命勉強したがそれは、ここに入るのだろうかと迷うのではないでしょうか。そういった個人での活動は「活動に参加」に入るのだろうかというように全体の流れに違和感があるので、改善できないでしょうか。

（山田委員）生涯学習とは、基本的には個人の成果と思います。それが集合していって公共の成果となっている。これが個人の成果を通り越して、すべて公共の成果に質問がいっているように感じます。

（立花委員）生涯学習とは非常に広いわけで、個人の活動も、公共の活動も生涯学習ですから、最初にそういったことをわかりやすい文章で説明していただいたらよいのではないでしょうか。

（山田委員）学習の方法論の問題であると思います。個人で勉強するのも方法もあると思います。サークルなどの活動が、前面に出てしまうと違和感を持つ人もいるのではないかなと思います。

（中谷委員長）本当に貴重なご意見だと思います。では、アンケート調査の工夫をどの

ようにしたらよいでしょうか。

（事務局　川崎次長）１ページ目に『ここでいう「生涯学習」とは…』ということで不十分かもしれませんが説明しております。この文言をうまく書ければ、今のご意見ありました内容を反映できると思いますが、いかがでしょうか。

（立花委員）今書いていただいている文章もそういったことを含めての意味だとは思いますが、市民の方には少しわかりにくいかもしれませんので、もう少しわかりやすく書いていただければと思います。

（山田委員）生涯学習が活動を行うことを目的にしているというところが引っかかるところです。

（中谷委員長）問２－２までは、個人的なものでもとらえてもよいかなと思います。誤解のある部分はもっとわかりやすくした方がよいと思いますが。それまでは個人でも集団でもよいので、問２－３のところで、個人か集団かがわかればよいかと思います。

（立花委員）問２－３で個人か集団かをここで尋ねておけば解決すると思います。

（中谷委員長）最初にわかりやすく説明するということにすれば間違いないと思います。

（事務局　川崎次長）問２－３で「７　公共施設（図書館やスポーツ施設）を利用して個人的に活動、学習」「８　本・テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じて主に自宅で活動、学習」という個人の活動も入っていると思うのですが。

（中谷委員長）もう少しわかりやすくならないですか。個人での活動なのか集団での活動なのかを尋ねた方がよいと思います。

（事務局　川崎次長）「自宅で」「集団で」と尋ねてからというように修正します。

（小石副委員長）本文中、「生涯学習をする」といった表現がありますが、これが硬いのではないかと思います。最初に「生涯学習の現状についておたずねします」とありますので、本文では「生涯学習」という言葉を使わずに「学習や活動」とした方がよいのではないでしょうか。

（立花委員）賛成です。一般市民が「生涯学習」って言葉を聞いたら、「それって何？」と聞かれます。コミスク活動については「今やっていることが何で学習なの」ってなってしまいます。「生まれてから、学校で勉強して、いろいろな勉強もずっと一生涯やっているということです」といっています。退職した後自由になった時間にするものと思っている人もいます。子ども会などの地域活動も含めて、一生涯にわたって学習することと思います。

（中谷委員長）最初の「学習や活動、文化活動…」とあるところを、「学習活動、文化活動」としたらいかがでしょうか。

（山田委員）学習活動、文化活動、ボランティア活動は、性格が違うと思います。例えば、市民一人ひとりが、日常生活をより豊かなものにするために、またスキルアップやキャリアアップなどを実現するために、学習を通して身につけることと思います。それを文化活動、ボランティア活動、地域活動に活かしていくこと。ここでは「活動を行うことです。」とありますが、活動を行うことだけではなく、活動の中から得るものもあると思います。

（中谷委員長）冒頭で生涯学習を定義していますが、誤解が生じないようにと思います。

（若林委員）問１で、「あなたは、学習の必要性を感じていますか」とありますが、「学習の必要性」はどうなのでしょうか。

（中谷委員長）「生涯学習の必要性」としてはいかがでしょうか。最初にしっかりと定義づけもされていると思います。

（林委員）なぜこれを問うのか。何を目的にアンケートをするのかと考えると、問１をなぜ、ここに出さなければならないのか。また、後半になりますが、レベルを問う設問もありました。なぜ、レベルを問わないといけないのか。集約して何を基本構想に盛り込むのか。項目の細かなところは、こだわらなくてもよいかなと思います。

（事務局　川崎次長）ご意見ありました設問の必要性ですが、平成５年に同じようなアンケートをとっております。そのアンケート結果との比較をし、市民意識の変化をみていきたいと考えております。

（中谷委員長）キャッチフレーズ案について、私は今決めるのではなく今後おのずから絞られてくるのではないでしょうか。事務局いかがでしょうか。

（事務局　田嶋主査）アンケートの鑑として、市民に親しみやすくということで考えております。印刷の発注等のスケジュールを申し上げておりませんでしたので報告します。３月中旬に発送し、４月上旬にかけて回収し、集計分析を行いまして４月末くらいに速報、分析内容等の細かいものについては、５月中旬にお示しできたらと考えております。したがって、アンケートに掲載する内容については、本日の委員会で決定をいただきたく思います。

（中谷委員長）前回は硬い標語でしたので、「親しみやすく」ということで、「日常をより豊かにするために」と入れています。キャッチフレーズはこれでよろしいでしょうか。

（委員）<了承>

（中谷委員長）豊かもみんな求めていることですし、興味を持っていただけるのではないでしょうか。では、その他を事務局お願いします。

（事務局　川崎次長）今後のスケジュールですが、３月中旬に発送、回収しまして、集計分析を行いましてある程度形になりましたら、次回の策定委員会を開催したいと思います。

（中谷委員長）では、確認だけさせていただきます。そして次回は５月中旬以降くらいということで、事務局からご日程の調整を行ってもらうということでよろしいでしょうか。

（林委員）今後のことについて、この委員会自体、何をどこまでやるかということを、教えていただきたい。我々委員はどこまでの理解を持って、生涯学習推進基本構想に発言をするのか。平成５年の前回の生涯学習推進基本構想を改定するということで、前回の評価、実施状況においてよかった点、悪かった点、市の行財政を含めてそういったところを知らずに意見するわけにもいかないと思います。そういった話し合いの場を設けていただければありがたいです。

（中谷委員長）前回、資料１・２を配布されまして、説明を受けたと思っております。生涯学習推進基本構想の素案を策定する委員会だと理解しております。

（林委員）市の財政の問題、行政がいっている生涯学習の実態をできるだけ問題があるかないかを総括していただき、提示していただきたい。例えば市民センターの活動状況等についても、教えていただきたい。

（中谷委員長）素案をつくる上で、そういった資料は必要かと思いますので、準備をお願いします。これを持ちまして第２回芦屋市生涯学習基本構想素案策定委員会を閉会します。

閉会